

「北陸の弥生文化」主な展示品



写真撮影：あいち朝日遺跡ミュージアム

1 人面付（じんめんつき）土器

重要文化財

八日市地方遺跡(石川県小松市)

弥生時代中期中葉

小松市埋蔵文化財センター蔵

壺の口縁をふさぎ、人体の頭部から胸部を表現しています。頭はT字形、顔面は逆三角形に作られ、目、鼻、口が表現されています。胸に当たる部分に円形の注口があります。壺の形や文様には、東海地方との関係がみられます。



写真撮影：あいち朝日遺跡ミュージアム

2 土偶

重要文化財

八日市地方遺跡(石川県小松市)

弥生時代中期後葉

小松市埋蔵文化財センター蔵

長さ5.4cmの小さな土偶。頭部と四肢を欠損していますが、体形から女性像とみられます。胸部にシカが線刻されており、弥生時代の絵画土器に描かれたシャーマンの姿を彷彿とさせます。



写真提供：石川県埋蔵文化財センター

3 柄付鉄製（えつきてつせい）ヤリガン

八日市地方遺跡(石川県小松市)

弥生時代中期中葉

石川県埋蔵文化財センター蔵

ヤリガンは木の表面を削る工具の一種です。本資料は、木製の柄に鉄製の刃が装着された状態で出土したもので、弥生時代唯一の事例です。弥生時代の鉄器の普及、木器の加工技術を考える上で一級の資料です。



写真撮影：あいち朝日遺跡ミュージアム

4 桶（おけ）

石川県指定文化財

西念・南新保遺跡(石川県金沢市)

弥生時代後期

金沢市埋蔵文化財センター蔵

木材を筒状にくり抜き、段を設けた部分に円形の底板を落とし込んで容器としています。底板を受ける部分には、木釘が打ち込まれています。日本海側に特徴的な桶で、高度な製作技術が伺える資料です。